

第55回 横浜市屋外広告物審議会議事録

議 題	<p>審議事項</p> <p>議事1 横浜市屋外広告物条例第19条に基づく許可の特例について</p> <p>議事2 横浜サインを推進するための表彰制度（案）について</p> <p>報告事項</p> <p>報告1 横浜サインガイドラインの策定状況について</p> <p>報告2 第2回横浜サインフォーラムの開催結果について</p> <p>報告3 札幌市の看板落下事故を受けた安全点検依頼の実施について</p> <p>報告4 禁止地域における展望不可案件について</p>
日 時	平成27年6月29日（月）午後3時00分から5時00分まで
開催場所	横浜市庁舎5階 関係機関執務室
出席者 （敬称略）	<p>委 員：岩村和夫、大川一平、河住志保、菊竹雪、平山正晴、松野勲、山崎洋子、山中孝文</p> <p>事務局：小池政則（都市整備局地域まちづくり部長）、飯島悦郎（都市整備局景観調整課長）、 岩松一郎（都市整備局景観調整課景観調整係長）</p> <p>説明者：関係事業者</p>
欠席者 （敬称略）	委 員：秋山桂子、村上弘一
開催形態	<p>議事1は非公開</p> <p>議事2以降は公開（傍聴者なし）</p>
決定事項	議事2：事務局案のとおり、表彰制度案が承認された。なお、選定基準の内容については引き続き検討することとした。
議 事	<p>開 会</p> <p>（事務局）飯島景観調整課長</p> <p>それでは、定刻の3時になりましたので、ただいまから第55回横浜市屋外広告物審議会を始めたいと思います。私は都市整備局景観調整課長の飯島と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、開会に先立ちまして、事務局の地域まちづくり部長の小池よりあいさつをさせていただきます。</p> <p>（事務局）小池地域まちづくり部長</p> <p>皆さん、こんにちは。都市整備局の小池と申します。この審議会は前回は1月で、この前かなと思いますけれども、早いものでもう半年たってしましまして、1月に開催して以来のきょうということになります。</p> <p>前回は、新しいメンバーでデザイン審査部会をつくる議論とか、それから、先ほどもちょっと話に出ていましたマンホールの件でした。きょうもこの後、議案に入っていますけれども、ベ이스ターズのマンホールの件とかをご審議をいただいたところです。おかげさまでマンホールは今もう既についていて、ベ이스ターズもおかげかどうかわかりませんが、非常に好調な出だしでした。そういったことで、この関内近辺は非常ににぎわっているという状況です。</p> <p>一方で、2月に札幌で看板が落下するという事故がありました。そういった安全性の面もこの間、非常に課題になってきていると思います。そういうことで、市内で危険な看板がどのくらいあるかという調査も、我々のほうでもいろいろ業界の方と協力いただきながら取り組んでいるところですので、そういう点での課題がクローズアップされてきているのかなと認識しているところです。</p> <p>あとは、横浜サインという取り組みも昨年からずっとやってきておりますけれども、3月1日がサインの日ということでサインフォーラムをやりました。それから、そこでもちょっと提案をしましたが、表彰制度をつくりたいというお話もさせていただきました。そのあたりも少しずつ議論が進んできていますので、きょうはちょっとそのあたりもご報告させていただいて、ご意見をいただきたいと思っています。今年度、今の安全性の面や景観、あるいは広告物を企画にしたまのにぎわいづくりみたいなことでもまたいろいろご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>（事務局）飯島景観調整課長</p> <p>事務局は、今ごあいさつさせていただきました部長の小池、それから私、飯島、それから同じく係長の岩松が務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。それから、審議事項に関係する職員と速記者が同席しておりますので、よろしく願いいたします。</p>

それでは、議事を会長にお渡しいたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

(菊竹会長)

きょうは、お暑い中、またご多忙の中ご参集いただきまして、ありがとうございます。本日は審議事項と報告事項が盛りだくさんでございますので、早速ですが審議会を始めさせていただきたいと思えます。

まず事務局で、本日の審議会の成立について確認をお願いいたします。

(事務局) 飯島景観調整課長

本日の審議会は、委員 10 名中 8 名が現在出席されています。秋山委員と村上委員からはご欠席というご連絡をいただいておりますので 8 名のご出席ですけれども、屋外広告物条例施行規則第 31 条 2 項の規定によりまして、審議会は成立するということをご報告いたします。

(菊竹会長)

ありがとうございます。続きまして、お手元の資料の確認と、会議の公開の取り扱いについて説明をお願いいたします。

(事務局) 岩松景観調整係長

ちょっと資料は厚くなっているのですが、一番初めに次第がございます、続きまして座席表があります。なければ、そのときに手を挙げていただければと思います。続きまして名簿がございます、議案 1 の (1) という A 4 の紙です。それから、デザインマンホールの制作ということでベ이스ターズさんのカラー刷りの資料がございます。それから、議案 1 の (2) がございまして、これも左上をホッチキスとどめてあります。それから、ピカチュウの申請用図面集というものがございまして、これはカラー刷りです。一緒にとじてあります。それから、議案 1 の (3) がございまして、それから「(仮称) 横浜駅西口駅ビルの工事仮囲いを活用した地域情報発信について」という A 4 のカラー刷りの資料がございます。それから、続きまして議案 2 が A 4 で 1 枚。それから、A 3 が折り込んであるものが 1 枚ございます。それから第 7 回横浜・人・まち・デザイン賞の資料がございまして、報告 1 のほうが A 4 の紙、それから岡本版のガイドラインが A 4 のカラー刷りのもの、それから金沢市屋外広告物ガイドラインがやはりカラー刷りのものでございます。

続きまして、報告 2 はやはり A 4 でホッチキスとどめてあるもの。それから報告 3、札幌市の看板のものも左上をホッチキスとどめてございます。それから、安全管理ガイドブックがございまして、報告 4 が最後にあるという形になっております。また、進んでいく中で資料がない場合は、手を挙げていただければお配りに参りますので、よろしく願いいたします。

(事務局) 飯島景観調整課長

資料の確認は以上です。それから本日、審議事項のうち議案の 1 番、許可の特例に関しましては、法人に関する情報であって、公にすることによって当該法人の権利、競争上の地位、その他正当な利益を害するおそれのあることとなります。情報を慎重に取り扱うということから、横浜市の保有する情報の公開に関する条例 31 条ただし書きの規定に基づきまして、非公開としたいと思えます。なお、公開・非公開の判断は、横浜市附属機関の会議の公開に関する要綱第 4 条に、附属機関の長は、当該附属機関の会議の一部または全部の非公開を決定することができるとなっております。先日、菊竹会長には趣旨をご説明いたしまして、議案 1 に関しましては非公開ということで了解を得ております。以上です。

審議事項

議案 1 横浜市屋外広告物条例第 19 条に基づく許可の特例

(1) 路面への広告物設置について

(菊竹会長)

それでは、早速ではございますが、本日の議事に入りたいと思えます。次第に沿って進めさせていただきます。まず議案 1、横浜市屋外広告物条例第 19 条に基づく許可の特例について、3 件ございます。

最初に、議案 1 (1) 「路面への広告物設置について」事務局から説明をお願いいたします。

(事務局) 岩松景観調整係長

事務局から簡単に説明した後に、ベ이스ターズさんが来られていますので、内容の説明をしていただきたいと思います。それでは、議案 1 の (1) をごらんください。横浜市屋外広告物条例第 19 条に基づく許可の特例について、(1) 路面への広告物設置についてです。

経緯のところではございますけれども、実は前回もご説明しておりますが、マンホールが横浜市の場合、道路の路面につけるものについては屋外広告物を禁止しています。それで過去にはマリノスマンホ

ールなどを第 45 回、46 回あるいは 53 回の審議会で、日産スタジアムの新横浜の周辺に特例として認めた事例がございます。それから、第 53 回、約 1 年前になりますけれども、このときに瀬谷区の長屋門公園のルート沿いに雰囲気づくりを強化するまちづくり活動の一環としてデザインマンホールを認めた経緯がございます。それから前回、第 54 回でございますけれども、こちら場でまさに審議しました、横浜 DeNA ベイスターズさんの J R 関内駅周辺のデザインマンホールについて、設置を許可した経緯がございます。

本日の審議ポイントとしては 3 点ございます。1 点目は、今回の設置者が地元のプロ野球チームである横浜 DeNA ベイスターズでもあり、設置目的は横浜スタジアムの中だけで閉じているにぎわいを地域にも開放しまして、まちも一体となってプロ野球チームを盛り上げることで、まちの活性化に貢献するという事。それから 2 点目として、関内地区は景観計画に基づく景観推進地区であり、屋外広告物についても、ほかの市域として比較して上乘せ基準があるなど、景観面で配慮したエリアであること。それから 3 点目として、今回掲出するデザインは、前回許可した J R 関内駅周辺に設置したものと同じデザインであり、周囲の景観を阻害しないものであると考えております。

では、具体的な内容について、ベイスターズさんからお願いいたします。

(説明者) 横浜 DeNA ベイスターズ

横浜 DeNA ベイスターズの広報部のテツと申します。どうぞよろしくお願ひします。先ほど会の始まる前にもありましたけれども、おかげさまでというか、ちょっと調子がよかったり悪かったりして、多くのにぎわいをつくれているかなと思っております。

その一つとして、開幕前の春先に、こちらのマンホールの設置をご承認いただきました。そちらのときの資料と前半が同じものですので、表紙 1 枚、2 枚目をめくっていただいて、そこからお話しさせていただきたいと思ひます。こちらのページです。DeNA ベイスターズも 4 年目に入りまして、個人・企業にかかわらず、まちの皆様とさらに関係をしっかりと深めていって、野球を楽しんでいただきたいと思ひます。それで、さまざまなイベントや地域密着活動を進めております。こちらの資料にありますように、ことしもユニフォームをお客様にプレゼントする企画ですとか、「I ☆ YOKOHAMA」(アイ・ラブ・ヨコハマ) というキーワードを掲げて、今後も展開していく予定でございます。

めくっていただきまして、まちなかにもいろいろなバナーを張らせていただいたり、地域の商店街の方と連携させていただきましたり、イベントにも Mascot が登場したりということで、チームの勝敗にかかわらず、まちの中に野球というものを少しでも感じていただくような取り組みを今後も進めてまいります。

次のページの 6 ページは、デザインマンホール設置のメリットということで、今、岩松様にお話しいただいたとおりで、横浜市の方々にマンホールを通して少しでもコミュニケーションをとっていただきたいということと、あと横浜市さんに関しては、老朽化していたところのマンホールを交換するメリット、私たちスタジアムとベイスターズに関しては、少しでも野球を皆さんに知っていただきたいという、この三位一体の取り組みを目指しております。ここまでは前回の冒頭でもご説明させていただいた部分であります。

次のページがマンホールのデザインになります。前回ご審議いただいた後にいろいろご調整をいただきまして、こちらのデザインに落ちつきまして。真っ青な色ではなくて少しトーンを落として、そしてベイスターズのロゴというよりも、この星のマークをまず一つ大きくすることによって、少しベイスターズの色を落としております。ただ、こちらのデザインにしたことで、発表したときは非常に多くのお客様から好評をいただきまして、さすが横浜市のマンホールだという書き込みが SNS でもかなり多くありまして、メディアにも多く取り上げられた実績がございました。その際は本当にアドバイスありがとうございました。

こちらのマンホールのデザインを現在、隣のページにあります J R 関内駅付近に、計 22 カ所設置させていただいております。一部、景観重点を最も重視したエリアに関しては、黒い色にはしているのですが、ほとんどがこちらの青いもののデザインになっております。数字が 26 番目までありますが、この中で幾つかカットしておりますので、現在は 22 カ所設置をさせていただいております。

今回ご審議いただきたい点としましては、次のページになりますが、これに追加して、関内駅付近にプラス 14 カ所設置をさせていただきたいと考えております。さらにまちの中にベイスターズが出ていって、多くの人たちの会話のきっかけ、コミュニケーションのきっかけになるようなマンホールを設置したく考えております。

設置場所の写真に関しては、次の隣のページにございますとおりです。初回に設置させていただいたエリアとほぼ大きくは変わらないような路面のところに置かせていただきたいと思ひます。8 月

までに計 14 カ所の追加での設置というものをご審議いただきたく、よろしくお願ひいたします。

(菊竹会長)

ありがとうございます。まず初めに、第 1 回目の J R 関内駅周辺のデザインマンホール設置にあたり松野委員にご尽力いただき、また D e N A ベイスターズにご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。さて、ただ今事務局より説明がありました、第 2 回目のデザインマンホール設置について、委員の皆様方からご質問やご意見をお願いしたいと思います。

(岩村副会長)

では済みません、質問をいいですか。

(菊竹会長)

どうぞよろしくお願ひします。

(岩村副会長)

全く問題ないと思いますが、色はどちらをされるのですか。

(説明者) 横浜 D e N A ベイスターズ

青です。

(岩村副会長)

青ですね。このダークブルーというか。

(説明者) 横浜 D e N A ベイスターズ

そうです。

(岩村副会長)

全く問題ないと、私は思います。

(松野委員)

一つ、先ほどこちょっと話し始めてしまったのですが、この紙面でみるように設置場所がそれぞれ 22 カ所ありまして、実際そこに行ってみると、こんな平面的な場所ではないわけです。マンホールの周りには空間があって、植え込みがあったり、結局この石畳も坂だったり、坂の横にはきちんとした植え込みがあったり、人の道がそのわきにあたり、全然違うわけです。そうすると先ほども言ったように、鑄鉄のままのマンホールのほうが、環境的に視ても似合っているのです。そういうものをひん曲げてまでつける必要があるのかというところ。それと、横浜市の景観をベースにした場合は、ある程度、鑄鉄のままのものが混在していてもおかしくないし、そういう場所は植栽などとうまくマッチしたりしているのです。その辺が前回気になった部分です。

ここで挙げられているものが、前回は、既に水道局との話し合いがついた上での事業なのだからということで押し切られましたけれども、もし景観ということで踏みとどまってみると、変える場所と変えなくてもいい場所をもう一回判断する。それは、だれが判断するかとなりますけど、我々なら我々が見に行き、そういう判断をするか。その辺のことが事前に必要なのではないかなということが前回強く感じられたところです。

(岩村副会長)

例えば 33 番みたいなのところですか。

(松野委員)

そうですね。例えば周りの植え込みの植栽が結構はげていたところもあったけど、これは季節が変わりグリーンが戻ってきた場合のことを考えると、鑄鉄のほうが合うのではないかなと感じられました。

(菊竹会長)

例えば 10 ページの表でいう 33、36、37 番が、松野委員がごらんになって植栽と絡んだようなマンホールでしょうか。写真ではなく、現地の状況から判断する必要があるようですね。

(松野委員)

この写真ではわかりにくいですが、この先にちょっとなだらかなカーブがあり、人の流れる道に繋がる導線ともなっています。導線に沿ってうまくふたがマッチするように設置する。その辺のことを全部加味した上での一体物だと思います。

(菊竹会長)

おっしゃるとおりだと思います。

(松野委員)

その辺をもう一つ吟味する必要があるのではないかと思います。

(菊竹会長)

事務局にお尋ね致しますが、新規に設置予定の 14 個は、水道局との協議の上ですでに決められたこと

なのでしょうか。

(事務局) 岩松景観調整係長

この写真を見ていただくとわかるのですが、実はもう既にデザインマンホール用に仕様ができております。この写真を見るとですけれども、あとはプレートをはめるという状態に今なっております。恐らく環境創造局のほうで、下水道のいずれにしてもリプレースをかけないといけないというところで、既にデザインマンホールの枠だけをつくってしまったところかなと思っております。ですので、今からいわゆる鋳物のものに変えるとかというのは、ちょっと現実的には難しいかなというところですよ。

(菊竹会長)

ベイスターズ様に確認したいことがございます。今後、こういったデザインマンホールを日本大通周辺に展開していくご意向がございましょうか。

(説明者) 横浜DeNAベイスターズ

前回のこの場では、行く行くは日本大通、そして横浜公園内へということでお伝えはしています。ただ、我々が考えているのは、次は横浜公園内、球場の周囲です。そこまでで一たんは希望のほぼほぼはクリアしているかなと思います。日本大通に関しては、クリアしなくてはいけない課題が非常に多いと思いますので、ここは時間をかけてお話を進めていかなければいけないかなと考えております。希望としては持っているのですが、すぐにこうしたいというところまで無理は申し上げないつもりです。

(岩村副会長)

そのとき、前回たしか記憶があるのですが、横浜公園の中には部分的に鋳物でつくるといってお話もあったような記憶があるのですが。

(説明者) 横浜DeNAベイスターズ

その話は多分していません。というのは、鋳物だとコストがかかってしまうので、我々の選択としては鋳物は考えていません。横浜公園の中は、例えばこのベイスターズのロゴがあるのですが、より球場に近いということで、こちら球団のロゴを公園の中では使ってはどうかと。

(岩村副会長)

デザインの問題としてですね。

(説明者) 横浜DeNAベイスターズ

そうです。デザインのところを少し変えたいとは考えております。

(菊竹会長)

今後、横浜公園内、日本大通へのデザインマンホールの展開については、審議会としてより慎重な対応をしていかなければいけないと思います。つきましては、今後は設置ありきではなく、設置の可否や場所、またデザインの内容や制作方法について審議会で議論がなされるよう、事務局と横浜DeNAベイスターズにお願い致します。

(事務局) 岩松景観調整係長

日本大通に関しましては、少なくともいわゆる本当に設置するか否かも含めて真っさらな状態でおります。横浜市が今回のように下水道計画に沿ってこういうふうにつけるといことは、まずございせんのでご理解いただければと思います。それとあと横浜公園ですけれども、実は、道路の路面には広告物を表示してはならないという禁止物件に該当するために、今回の審議会にかけています。実は横浜公園の中は公園の中でございまして、禁止にはなっていないのです。ですので、実際は公園の部隊とベイスターズさんとで交渉している最中でございます。もちろんデザイン性についてもそこで議論は出ているかなとは思っております。

(事務局) 飯島景観調整課長

今の横浜公園に関しては、場所についても横浜公園内のどこにでもということではなくて、スタジアムの建物の直近のところにベイスターズのロゴのついたものをつけるということで調整をしているということですよ。

(菊竹会長)

済みません。少し先の話になってしまいましたので、もとに戻します。もう一度、地下鉄の関内駅周辺について、デザインについてはおおむね皆様から反対意見はなかったように思いますが、設置場所等につきまして、さらにご質問・ご意見がございましたら、よろしくお願ひいたします。

大川委員、よろしくお願ひします。

(大川委員)

ちょっと意見が外れるかもしれませんが、これを私は見ていると、27番まで40番まで、これでもう仕上がっているのですか。要するにコンクリートで補強しているというか、ぐるっと周りを囲ってお

りますよね。これはコンクリートだけですか。要するに、もう少し配慮がないのかなとか思いまして。

(説明者) 横浜DeNAベイスターズ

この枠自体は、もう既に恐らく……

(大川委員)

これで仕上がりなのですか。

(説明者) 横浜DeNAベイスターズ

これで仕上がりなのですね。

(大川委員)

この辺のところもベイスターズさん、もう少し気になりませんか。私が看板屋だからなのかわかりませんが、マンホールのふたがどうのこうのというよりも、これは全体を見たときのこの違和感、これで仕上がりというところに何のためらいもありませんか。

(説明者) 横浜DeNAベイスターズ

まあ、そうですね。

(事務局) 岩松景観調整係長

そこはベイスターズさんではなくて、横浜市の施工の問題になります。

(大川委員)

そうすると、そこまでは関係がないということなのですね。

(事務局) 岩松景観調整係長

はい。ベイスターズさんはあくまでも、この上のプレートを置く部分だけです。今のご意見は、ちょっと環境創造局のほうに問い合わせたいと思います。

(大川委員)

そうですね。私はそのように感じたものですから。これは、よくもなるも悪くなるも、こういうところの配慮がもう少しあると、委員がおっしゃったようなことも多少は緩和できるのかなと思いますけれどもね。

(松野委員)

現在つくられているものをご覧になっていますか。

(大川委員)

いや、見ていません。

(松野委員)

実は、8ページのところに既存の設置場所と書いてありますね。これの上から2つ目の写真が現在の仕上がりの感じで行っているものです。

(大川委員)

ああ、なるほど。1番目の上のを2番目のように仕上げたということでしょうか。

(松野委員)

要するに、仕上げというか、先ほどおっしゃっていた周りが白いのは何だということではなくて、仕上げというか、そのおさまりとしては、下の写真のような感じで仕上がっています。

(大川委員)

そうなのですね。

(岩村副会長)

振り返ると、前のページの大きな絵がありますよね。この要するに黒い部分が白いコンクリートの部分に相当すると考えたらいいでしょうか。

(事務局) 飯島景観調整課長

いや、違います。この周りにコンクリートです。

(松野委員)

先ほどの30何番から振ってあるものが全部、周りが白くなっています。それは、資料の紙面上からは見えないからこうやっているのだと思います。溶けてしまうと。

(大川委員)

今、松野委員がおっしゃった、この8ページの写真のところですね。これで仕上がりかと私は言いたいです。

(松野委員)

そうではありません。現在はこの……

(大川委員)

そしたら、こちらの下の写真のほうになっていますよと。

(松野委員)

そうです。

(大川委員)

もう一つ言わせていただければ、なおも、これで仕上がりですかと言いたいです。もうちょっとこの周りのタイル……

(松野委員)

タイルというのは石のことですか。

(大川委員)

石ですか。

(松野委員)

はい。

(大川委員)

その辺の色ともう少しマッチするようにするとか。同じ全然違う色にするにしても、コンクリートで何とか周りはやりましたよという。

(松野委員)

だけど、これは、設置のときにはコンクリはさわっていないですよ。

(説明者) 横浜DeNAベイスターズ

コンクリはさわっていません。

(松野委員)

一切ね。

(説明者) 横浜DeNAベイスターズ

はい。

(松野委員)

だから、今までの鋳鉄をはめてあったもの、そのものところに新しい真ん中のふたが来たものに乗せているわけですよ。

(説明者) 横浜DeNAベイスターズ

そうです。

(松野委員)

周りはタッチしていないけれども、ここはなぜか全部白くさわっているのですね。

(説明者) 横浜DeNAベイスターズ

はい。周りの部分に関しては多分、横浜市さんが事前に行った工事の影響は多少あるのかもしれませんが。

(大川委員)

それでは百歩譲って、ではこれを白でやったらとしましょうか。皆さん、8ページのこの写真をよく見ていただいて。もっときれいに円ができないのかと。

(菊竹会長)

おっしゃるとおりです。

(大川委員)

私がやっても、もう少しうまくいくのではないかと思います。

(菊竹会長)

そうですね。

(大川委員)

これはプロがやったのですか。

(事務局) 飯島景観調整課長

下水道の担当をする環境創造局がこのふたを、恐らくふただけ取りかえるケースと、そのふたの下の部分まで含めていろいろな老朽化などで取りかえているケースがあるのではないかと思います。

(大川委員)

でも、これは確かにこの専門の方、外注さんがやっという感じがしますね。

(事務局) 飯島景観調整課長

ええ。その際に、少し周りも彫り込んで工事をしたりすることから、こういう状況が生じているのではないかと思います。

(大川委員)

これがぴちっとできると、ベ이스ターズさんのこのマークももうちょっと生きるかなと。言葉が悪いんですけど、何これ、素人がやったの？ 素人さんですか。

(事務局) 飯島景観調整課長

その辺は環境創造局のほうにも確認したいと思います。

(菊竹会長)

ぜひ今後ともよろしくお願いたします。ほかにご意見等はございますでしょうか。なければ、路面への広告物設置については、皆様にご了承いただいたということにさせていただきたいと思います。

(丁承)

(説明者) 横浜DeNAベ이스ターズ

どうもありがとうございました。

(菊竹会長)

ありがとうございました。

議案1 横浜市屋外広告物条例第19条に基づく許可の特例

(2) 催事に伴う規格外等広告物の掲出について

(菊竹会長)

続きまして、議案1(2)催事に伴う規格外等広告物の掲出について、事務局からご説明をお願いします。

(事務局) 岩松景観調整係長

今、事業者が参りますので、少々お待ちください。先に事務局から簡単に説明させていただいて、事業者さんのほうからまた説明していただきたいと思います。議案1の(2)催事に伴う規格外等広告物の掲出についてというところでございます。

1番の経緯のところでございます。昨年度の審議会であった、みなとみらい21地区の商業施設を中心にキャラクターがさまざまな場所に掲出する催事を、昨年引き続き今年度も行うことになりました。このキャラクターというものが屋外広告物に該当するために、市の条例や規則、規格などが適用されます。後ほど説明があると思うのですが、今回掲出されるキャラクターのバルーンや日本丸さんのところに掲出する物件につきましては重要文化財でございます。この国の指定重要文化財に指定されているエリアは、屋外広告物、いわゆる第三者広告と言われているものが掲出できない地域に当たっております。このため、全部のキャラクターというわけではなくて、一部の規格を超えたものであるとか、禁止区域と言われている地域に広告を掲出する物件について、本審議会の意見を伺う案件となります。

2番目の事務局としての考え方は、2つございます。一つは今回、昨年よりは進んだ点としましては、横浜市と企業がタイアッププロモーション事業という国内誘致に選定されておりまして、この事業が横浜の観光地としての魅力を生かし、観光客増または横浜観光の需要喚起につながる事業と文化観光局がんでいたものであるというところから、公益上の理由その他の理由に該当すると思われること、2点目は、キャラクター自体は子供から大人まで広く認知されておりまして、キャラクターそのものの展示を中心に短期間の催事が多いことから、景観に障害しないものと認められると考えております。

2枚おめくりいただきますと「横浜市 企業とタイアッププロモーション事業の概要」というものがございます。基本的に横浜市のほうもお金を渡しましてタイアップして行うという、実際のところは共催に近いような事業になってございます。基本的には公募で選んだものでして、国内と海外のパターンがありますが、株式会社ポケモンさんに関しましては国内の部に選ばれた経緯がございます。

では、実際にどういうものが掲出されるかについては、事業者さんからご説明いただきたいと思っております。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

こちらをちょっとプロジェクターに映します。お待たせいたしました。株式会社ポケモンコミュニケーションズ、イベントプロデュースのヤマギワと申します。本日はよろしくお願いたします。本日は、今、岩松さんからご説明がありましたけれども、私どもがことしの夏休み、8月8日から16日で行いますイベントの屋外掲出物に関しましてご審議いただきたいと思ってお邪魔いたしました。

まず、昨年ご承認いただきました実施した内容に関しまして簡単にご報告させていただきます。こちらのスライドが昨年の実施した様子になっております。まさに我々のキャラクターでありますピカチュウ

ウがたくさん出て、まちにいらっしゃった方々を楽しませるというイベントになっておりました。人数的に、このイベントへの接触人数は、推計となりますけれども 140 万人。そしてまちで配らせていただいたピカチュウのサンバイザー、紙製のものがありますが、それが 30 万枚ということになっております。

こちらは実施させていただいた結果、国内でまず神奈川新聞、朝日新聞、読売新聞といったような大手の新聞で取り上げられたこともあります。また、下にありますように、AP通信、時事通信、ほかにも共同通信さんなども取り上げてくださったことで、その結果としまして海外でのメディア露出が非常に多くなりました。こちらは、これまでなかなかなかったことですが、フランス、ベトナム、UK、USA、シンガポールなどという、いろいろな国に情報が発信されていきました。この写真記事のみならず、文字の記事なども多かったのですが、すべての記事において横浜のまちの風景はもちろん入ってきますけれども、言葉としてもすべて「Yokohama Japan」（ヨコハマ・ジャパン）ということで、横浜がしっかりと告知されていきました。こういうところで、我々としても横浜市さんでさせていただいた成果として、こういうものが出てきたのが非常にうれしく思っております。

これは、ちなみにといいところですが、昨年8月末ごろに報告資料をつくっているときにYouTubeでどのくらいあるのかなと思ひまして、「ピカチュウ」と「横浜」というワードで検索をかけたところ、2万4300件という件数の動画が出てくるということがありました。このあたりもたくさん海外に向けて発信されて、これは基本的に海外の方があけているものになっていますが、それだけの数が出ていったということもつけ加えさせていただきます。

露出の特徴としまして、海外メディアや通信社からの発信によって海外メディアに多く出たということ。そして我々の自力だけではなかなか行き届かない海外の国々、ベネズエラやメキシコなど、ポケモンが浸透していないところにも、そういう通信社からの発信でポケモンと横浜のことがいろいろ出てきましたよというようなことになっております。そして、国内・海外合わせましてメディア露出という部分が広告費換算で2億1300万円ほどというところで、露出効果も非常に高くなっております。その広告費換算に入っていない部分としまして、昨年でいいますとこれは一般の方々、まちに来られた方からのSNSへの投稿が非常に多くて、それももちろん横浜のまちの風景を含めた形で、例えばこの左側の大きなものが恐らく最初に投稿されたものだと言われていますが、「ヨコハマがピカチュウで大変混雑しております」ということで、まちの風景とワードを含めた形で出ていくということが行われました。

そして、ことしというところになりますけれども、先ほど申し上げましたとおり、8月8日から16日でイベント接触人数も170万人を目指していく形で、そして媒体露出も広告費換算で昨年の2.1億円に対して2.5億円を目指していきたいと思っております。それを、岩松さんからお話にもありましたけれども、ことしは横浜市さんと企業タイアッププロモーション事業の協働事業に選定していただきましたので、昨年以上に密に協力させていただきながら実施していくというところがあります。一つ大きなところとしましては、横浜市さんが行われます「Dance Dance Dance at Yokohama 2015」のイベントとの連携というものがあまして、昨年はまちにピカチュウがたくさん出るという驚きを世界に発信することを実現したのですが、ことしはそのダンスの部分で連携を図ることで参加性を高めて、動画がたくさん出ていくような形で、より横浜のまちが外へ出ていくと、世界に発信されるということもやっていきたいと思っております。

ここからが、ことしの実施の屋外掲出物の内容になります。基本は昨年がありまして、そこにプラスオンという形になります。お時間の関係で、本日はことし新たに追加させていただくものを図面のみご紹介・ご説明させていただきます。全体のエリア図におきましては、昨年なかったのが楕円形のEの部分です。ここはクイーンズスクエアさんになりますが、ことしはここがエリアとして新たに追加になりました。ほかのところは昨年と同じです。

そして、ちょっと細かくて申しわけありませんが、真ん中のこの線の赤で書いてあるところが新規のものになります。ほかのところは昨年行ったものと同じことをさせていただきます。会場ごとにいきますと、コスモワールドに関しましては昨年同様になっておりますので、図面は特にございません。大きなバルーンの設定と観覧車のラッピングを行わせていただきます。

赤レンガ倉庫に関しましては、昨年同様の大きなバルーンの設定とラッピングのピカチュウカーの設定があります。そして新たにステージカーを今回は使用させていただきます。こちらはマルチビジョンが乗った形になります。何か商品の告知を流すということではなくて、今回のイベント用に、市民の方々と一緒に踊りましょうということでピカチュウダンスというものをつくっているのですが、そのダンスを覚えていただくための映像を流し続けると。そして最後の2日間、皆さん、集まって一緒に踊りましょうという呼びかけをするために使わせていただきます。赤レンガ倉庫の1号館を背負う形で設置

の予定です。

そして、桜木町の駅前広場になります。こちらは、昨年設置したテントがありつつなのですが、ことしは桜木町駅の開業 100 周年ということで、JRさんからも何か一緒にというお声をいただきましたので、ことしは、よくある遊具の列車をピカチュウでラッピングしたものを走らせたりをさせていただきます。それがまずこちらの電動ト레인です。広場内で運行させますが、集まった方に無料で遊んでいただくようなことを計画しております。

そしてイツデモさん、新しくできたシアルさんの1階に入っているお店の一店舗のガラス面にピカチュウの装飾をさせていただきます。

このC-4は、以前からあるほうの改札の駅舎入り口の上のガラス面です。こちらに駅長のコスチューム、制服を着たピカチュウが出てくるといことで、張りつけるということにしております。これに関連しまして、広場のほうにも駅長ピカチュウというものが登場して子供たちを楽しませるといサービスも入っております。

続きまして、日本丸さんが昨年同様にマストのフラッグですとか、ドックの周りのポールのフラッグというものをさせていただきながら、新たに今回はE-5、海側の緑地への装飾を追加させていただきます。このD-6が、1メートルぐらいのFRP製のピカチュウを20匹、ランダムで設置いたしまして、運河を挟んだ反対側からの景色をつくるというふうを考えております。ここは恐らくことし一番写真に出るのではないかと感じております。日本丸さんに関しましては、船、航海をテーマにしたショーをアニメでさせていただき計画をしております。

そして、施設自体が新規になりますクイーンズスクエアで、この図面を見ていただきます。この34ページはランドマーク側の入り口、銀のヨコハマヨーヨーがあるところの入り口になります。そちらの上のガラス面にピカチュウの顔の掲出です。この取り付けは建物の内側から行います。先ほどの入り口の右下のほうにありますクリスピークリームドーナツさんのガラス面への装飾がこちらになります。これは先ほどのクイーンズさんの前面に対する掲出位置ということになります。真ん中の大きな四角と右下の四角が今回我々が新たに設置するもの、ほかはもともと設置されている店舗さんのサイン等になっております。

続きまして、このE-3がコスモワールドさん側の入り口上のガラス面ということになっております。こちらは、下のパークの部分に関しまして、遊具等の設置も行いながら上のガラス面を装飾していくということになっております。このE-4が、先ほどのガラスの手前の広場のところに設置されるバルーンです。そして、通常、フードコートのお客さんが使うようなテーブルが置かれていますけれども、そこもピカチュウの形をしたテーブルを設置させていただきというような計画になっております。

以上が、ことし新たに設置させていただき掲出物になります。私からは以上となりますので、ご審議のほどよろしくお願いたします。

(菊竹会長)

ありがとうございました。一つ私からご質問させていただきたいことがあります。昨年度この案件に対するご意見は特になかったと思いますが、1点安全面への担保に関しましてご留意頂きたい旨のご発言があったと記憶しております。昨年はじめてイベントを実行されるにあたり、安全面にどういった配慮がなされたのかご説明頂けますか。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

わかりました。我々会社としまして、まちでイベントをすること自体が昨年初めてでした。ですので、あらゆるご意見を想定して、カスタマーサポート担当も会場に常駐させるとかをしていました。それで、まずクレームといわれるものに関しましては、1つもいただかなかったというところはありません。例えば駅前広場にバスを設置する。これは一日じゅう夜も含めて設置しました。赤レンガ倉庫もテントを一日じゅう設置させてもらいました。そういうところに関しましては24時間警備をつけましたので、特に問題は起こっておりません。その他、幕関係の掲出に関しては全部高いところで手が届かないところですので、そこも特に問題は起こっておりません。

(菊竹会長)

もう一つ、8.5メートル高のバルーンについてはいかがでしたか。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

大きなバルーンに関しましては、実は全部の期間、掲出はしませんでした。というのも、やはり風が強いエリアですので、瞬間最大の風が10メートルを超したらつぶすという自主規制をかけまして、それで運用いたしました。特に赤レンガ倉庫が海に向けて抜けますので、瞬間で15メートルくらい簡単に吹いてしまいます。そうすると、ちょっとぐらとなったりしますので、もうそうだったら一時的に畳ん

で様子を見て、落ちついたら出すというようなところで、雨・風が強い日に関しましては掲出ししないという自主規制を持って運用しておりました。要するに、実はイベント全体が計画どおりに全部のプログラムが実施できたのは、最後の一日だけなのです。どこかしら雨が風かで影響を受けてできていないということが実情でした。

(松野委員)

去年その話を私がしました。以前、私が関わったイベントで大きなテントを張った経験から、あの8街区は本当に風が巻いて結構てこずる場所だと思いました。今後とも注意をよろしくお願いします。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

もう今は風が一番の課題というか、いろいろと屋根を張りたいところもありますが、風が強いので、もうやめましょうというところで、とにかく風を意識するというところでやっております。

(岩村副会長)

それも経験値が積み上がっていくと思います。ですから、今後ともこれを毎年継続されるとすれば、多少文書化でもしておいたほうがいいのかと思います。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

はい。ありがとうございます。

(岩村副会長)

説明責任を問われたときに、企業としてこうやっているよという話も準備されているほうがいいのではないのでしょうか。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

そうですね。今だと私の頭の中か、簡単な報告書しかありませんので、しっかりとまとめていきたいと思っております。ありがとうございます。

(菊竹会長)

ほかに委員の皆様からご質問・ご意見はありますでしょうか。

(岩村副会長)

瑣末な質問を済ませません。専門用語で接触人数というのは、どういう意味なのでしょう。動員数ではなくて接触人数というものは。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

動員人数といいますと、実際に会場の中に入って、何かしらのコンテンツで遊んでいただいた方という考え方を我々はしております。その会場の前を通過してちらっと見て、そのイベントを認識された方というふうな考え方をしております。それを接触人数と言わせていただいております。

(岩村副会長)

何かに触れるということではなくて。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

そうです。

(岩村副会長)

そうですか。それは普通に使われる言葉なのですか。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

我々のイベントでは、そうです。

(岩村副会長)

そうですか。私は初めて聞きました。接触人数ですね。

(松野委員)

その場合、例えばほかの類似のキャラクターがありますよね。そういうものとのすみ分け、いわゆる差別化、区別の方法のほかり方はどこかにあるのですか。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

多分、ほかり方は各メーカーさんや権利者の方で違うと思います。我々もイベントのスタイルによって数え方が違います。実はカードゲームの大会などもあります。そうすると対戦に参加した人数は明確に数えられるのですが、今回、まちというところでやったときに、どの方かお客様なのか、いわゆる私たちのイベントに遊びに来られた方なのかわからないというところがありました。それで、目にしてくださいました方というところ、このイベントを認識してくださった方というものを指針にしたというところ。

(松野委員)

先ほどの報告資料などを見ていても、その辺の読み込みができるような絵が得られるといいです

ね。あそことでは我が社のほうが上だとか、コア・ターゲットの認識度もこちらのほうが勝ちだという
ような、そういう何か読み取りができるような写真が撮れないのかなと思います。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

そうですね。去年でいきますと、我々が想定したターゲットとは違う方が楽しんでくださっていたの
が正直なところなんです。実は、ゲームソフトやアニメが主ですので小学生以下の方が多いと思っていまし
た。そしたら、実際のところは 20 代の方々が非常に多くて、そこがもう我々としては予想外でしたし、
すごくうれしかったところです。

(松野委員)

予想外でしたか。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

予想外でした。

(松野委員)

私はその辺だと思っていました。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

本当ですか。

(松野委員)

はい。というのは、今メディアミックスで話題づくりをしている後発キャラの〈妖怪ウオッチ〉と比
較した場合に、明らかにターゲット・エイジのすみ分けができていますのだと思います。あのすみ分けで
いくのだったら、横浜を使って「From Yokohama」(フロム・ヨコハマ)とバーン!と出せば、また別の
ハクがつくから面白いと思いました。横浜でどういう仕掛けをするのかということを知りたかった
です。その辺を教えてもらえると嬉しいです。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

我々としては、昨年こちらとして予想外だったというところはありますが、やはりああやって実施し
たことで、うちも来年で 20 年のコンテンツになりますので、最初のころに遊んでくださった方々が帰っ
てきてくれたというのが去年の夏でした。その方々に向けて、ことしも横浜のあの場所をお借りするこ
とで、さらにサービスを強めていくということが、ことしは新たにできることかなと思います。

(松野委員)

狙いとしては当たりだと私は思います。ドラえもんは川崎ですしね。だから、横浜発ということで海
外に向かって打つのも絶対に強いし、だったらターゲットをもうちょっとつかんでいたほうがいいので
はないかなと。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

そうですね。ことしは横浜市さんのダンスイベントとも連携させていただきますので、その辺のダン
スを用いてハイターゲットの方々としっかりとまちに取り組むところは、今回注力しようとしておりま
す。

(松野委員)

わかりました。ありがとうございます。

(山崎委員)

ちょっと伺ってもいいですか。このタイアッププロモーション事業というのは、毎年応募があつて、
それで毎年審査して決められるものなのですか。

(菊竹会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局) カイエダ

文化観光局横浜魅力づくり室のカイエダと申します。お答えします。平成 24 年から始めた事業でし
て、毎年公募をする形でテーマを設けて、例えば「観光誘客何万人以上をしてくれる提案を募集しま
す」という形で応募を求めています。すべて毎年プロポーザル審査ということで提案書を出していただ
いて評価の審査会を開いた上で相手方を特定して協定を結んで協働事業として実施するという仕組みに
なっています。

(山崎委員)

たまたまと言ったら変ですけど、去年とことし、このピカチュウになったということですか。

(事務局) カイエダ

昨年はこのスキームではなくて、単純にポケモンさんのほうでやられるイベントに対して横浜市が協
力しますということでしたが、今年度はより横浜市の施策に合致した提案をいただいております。大き

なところかというと、私どもでことしの夏にやります「Dance Dance Dance」という参加型のイベントがあるのですが、そこに親子連れや若い世代が踊りに来るという仕掛けも一緒につくっていただけますよという提案を初めてエントリーいただいて、その結果、選定されたという経過になっています。

(山崎委員)

すると来年はまたわからないから、変わる可能性もあるのでしょうか。

(事務局) カイエダ

そうですね。来年度もうちとしては公募をするので、ぜひポケモンさんには重ねてエントリーをいただきたいなと思っております。ここは完全なオープン公募形式をとっておりますので、どういった事業者が選ばれるかは来年のことにになります。

(山崎委員)

もしかして今度はキティちゃんがあふれるとか、そういうこともあるわけですか。

(事務局) カイエダ

あるかもしれません。うちとしては、できればポケモンさんとやりたい反面、なるべくいろいろな魅力的な横浜のことを発信できるような提案者に広く来ていただけるのはすごくありがたいことだと思っています。そこは是非々々やっていくことになろうかと思えます。

(山崎委員)

ありがとうございます。先ほど松野さんがおっしゃった横浜発ということで何かをやっていくのだったら、そんなにころころ変わらないでずっと続けてやっていくことが大事かもしれませんね。一つのキャラクターばかりやってはいけないという意見も出るかもしれませんが。

(松野委員)

あと、横浜として効率の高いコラボ・プロモーションの実施が出来るようになった事ではないでしょうか。あと一つ気になったのが、海外に発信された写真を見ていたら、横浜らしさがどこにもないので。ピカチュウのくどアップばかりが目立っていて・・・。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

寄ってしまっているところがありますね。

(松野委員)

そうです。文字として「From Yokohama」が入っているからいいのだけど、どこか1カ所、「YOKOHAMAらしい」ベストポジションみたいな場所をつくってもいいかなど。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

わかりました。去年でいきますと、ドイツとかフランスのメディアが来て、動画を撮って動画配信ということもしてくれていましたので、その中ではもちろん入っていたということはあります。先ほどカイエダさんのお話がありましたけど、ことしは最後の8月15日、16日に横浜のダンスイベントの参加者の方々に呼びかけて、「皆集まってピカチュウダンスをやりましょう」と言っていきます。そこに対して今、私どもの海外事業のセクションが海外のメディア誘致を今働きかけておりますので、赤レンガ倉庫とか海辺を含めた形で発信されていくところは力をかけていきます。

(松野委員)

わかりました。

(菊竹会長)

ありがとうございます。ほかに何かございますでしょうか。

(岩村副会長)

済みません。聞き逃したと思いますけど、何日から何日までですか。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

8月8日土曜日から16日、次の日曜日までです。

(岩村副会長)

はい、わかりました。

(菊竹会長)

よろしいでしょうか。それでは山崎委員からのご意見をふくめ、観光の需要喚起につながる継続的な事業になりますよう、ご尽力いただきたくよろしく申し上げます。また、今回新たに観覧車やFRP像が設置されるということですので、引き続き安全面の担保につきましてご留意いただきますよう、お願いいたします。

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

はい、わかりました。

(菊竹会長)

何かご意見がありますでしょうか。なければ、ご了承したということにさせていただきたいと思いません。ありがとうございました。

(丁承)

(説明者) 株式会社ポケモンコミュニケーションズ

ありがとうございました。

議案1 横浜市屋外広告物条例第19条に基づく許可の特例について

(3) 仮囲いへの規格外広告物の掲出について

(菊竹会長)

それでは、次に議案1 (3) 仮囲いへの規格外広告物の掲出について、事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局) 岩松景観調整係長

またこの件につきましても、事務局から先に簡単に説明させていただいて、その後、東日本旅客鉄道株式会社様よりご説明いただきたいと思います。それでは、議案1 (3) のA4の紙をごらんください。

1番の経緯でございます。現在、横浜駅西口で東日本旅客鉄道株式会社が(仮称)横浜駅西口ビルの建設工事を実施しています。この工事は2020年3月まで約4年間続く予定でございまして、仮囲いの長さが60メートルにわたって設置されております。2つ目として、東日本旅客鉄道株式会社では、市内でも人通りが多い横浜西口に設置した仮囲いを、横浜の魅力を発信する地域情報発信ツール、単なる広告媒体ではなくテーマに沿って編集された広告として活用することを検討しております。そして済みません、次の番号は3番になります。仮囲い掲出する広告物は条例上、壁面看板の取り扱いとなっております。規則に基づく規格では仮囲い当該壁面の30%の面積までが掲出可能です。この仮囲いは、面積が大きいもののこの規格の範囲内では情報発信力が小さくなります。このため、この30%を超える面積を使用して情報を掲出したいという意向があります。

2つ目に審議のポイントは3つございます。1つ目、地域の情報発信を提供することに公益性を認めることができるかどうか。2つ目、掲出内容に一定の質及び内容が単なる商業広告とならないような仕組みが担保されているかどうか。3つ目、掲出される広告について、景観を阻害せず、横浜駅前にふさわしいデザインとなるような仕組みが担保されているか。このような以上の3点から、景観を阻害しないと認めることができれば、特例の許可として取り扱うことが適当であるというふうに事務局は考えております。

それでは、JR東日本さん、お願いします。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

今ご紹介いただきましたJR東日本でございます。本日は説明の場を与您とさせていただきます。まことにありがとうございます。また、日ごろから弊社電車事業をご愛顧いただきまして、ありがとうございます。今ご説明いただきましたとおり、弊社JR東日本は今、横浜駅西口の駅前に……

(菊竹会長)

どうぞ、着座にて。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

失礼いたします。駅あるいは駅ビルのほうの建設を、2020年のオリンピックに向けてこれから工事をしてまいりたいと思っております。工事期間は非常に長い期間になってしまいますが、その工事期間において、仮囲いを使ったにぎわいの創出ができないかという提案をさせていただきたいと思っております。説明としましては、まず冒頭に駅ビル計画の簡単なご紹介をさせていただきまして、その後、仮囲いの取り組みについてさせていただきたいと思っております。それでは、スライドをごらんください。

まず駅ビル計画の概要でございます。今、我々は「Yokohama Live Station」(ヨコハマ・ライブ・ステーション)という形で開発コンセプトを掲げております。これから2020年以降、ますますリアル価値あるいはライブ感が非常に大事な時代を迎えるというふうに感じておりまして、まさにこの横浜の地で、そういった駅を実現していきたいと思っております。ちょっと位置図が見にくくて恐縮でございますけれども、横浜駅西口にちょうど面するような形の中でビルを形状し、2階レベルで鶴屋町地区のほうに歩行者デッキでつなげ、鶴屋町地区に駐車場を中心とした棟をつくっている部分の2棟を歩行者デッキでつなぐような開発になっております。そして、横浜駅西口においてリアル価値を体現する場を創

造するとともに、横浜エリアの価値が牽引できるような形の中で、関内・MM地区、横浜駅地区とさまざまな連携をして横浜を盛り上げていきたいと考えております。

簡単なボリュームでございます。今ごらんいただいている左側が駅前広場から見た感じですが、右側のほうが線路側から見た感じでございます。ボリュームとすると、駅前棟は延床面積で9万4000平米、地上26階、地下3階建ての建物でございます。上に伸びている高層棟の建物がオフィス棟でございます。ちょうど高層建物の部分で横に長い建物が商業を中心としたビルというところで、そういう意味ではアトリウム空間というところが駅の玄関口というような形の中で配置しております。

このスライドは、駅前広場からビルを臨んだような形の中で、アトリウム空間が4層吹き抜け空間の中でシンボリックに見えるような計画にしております。それがアトリウムの中に入った形の中です。ちょっとわかりづらいですけど、アトリウム空間の中から正面に鉄道が臨めるような形の空間を創出しているということと、4層の吹き抜けで非常に大きなボリュームの空間を今回用意できそうな感じです。

ちょっと簡単な動画をつくっておりますので、ごらんください。ちょっと本当は音があるのですが、出ません。横浜駅自体は今回2020年開業に向けて5代目になります。ちょっと済みません。音がなくてさみしい映像ですけど、これは今の横浜駅の駅前広場で、将来の横浜駅ビルの将来像を横浜の在住のアーティストさんにペインティングで4時間くらいかけてかいていただいたものをビデオにおさめて編集して、今プロモーションビデオにしているような状況です。シェラトンさんから見ると、こういう感じで夜景の部分が見えています。ちょっと音がなくて申しわけございませんでした。

それで、実際の工事計画でございます。2015年度の秋口から撤去工事も含めた形の中で本格的に工事に着手してまいりたいと思います。現在は、準備工事としまして一部、駅前広場の部分に既に仮囲いをつけさせていただいておりますけれども、秋口から本格的に工事をして、ビルの建設自体は2015年度末か2016年度初から建物を新築する工事に入ってまいりまして、2019年度中に工事を竣工したいと。そして、2020年の夏のオリンピックに合わせてビルを開業してまいりたいというようなことが全体の計画概要並びにスケジュールでございます。

それでは、具体的な仮囲いの取り組みについてお話をさせていただきます。現在、既に仮囲いの部分を設置させていただいております。先ほどご案内いただいたとおり、60メートルあるいは70メートル以上の、高さが3メートルくらいの非常に大きな面が出ているわけでございます。弊社JR東日本は、さまざまな駅の部分で仮囲いの設置をしているわけですが、何とかこういったところでにぎわいのスペースができないかというところは、かねてから検討してまいりまして、さまざまな取り組みをしています。今回、横浜市様の非常に絶大なる支援あるいはアドバイスをいただきまして、今回の取り組みを提案させていただきたいと思っております。

具体的な内容でございますが、仮囲いができる上で、工事に対しては必要不可欠なものでございますけれども、この仮囲いの面で何か地域貢献できる取り組みができないかというところを非常に大きな主眼に置いております。「横浜の、横浜による、横浜のためのメディア」と書かせていただいておりますけれども、仮囲いの面を使いまして地域の情報発信に資する展開を考えていきたいと考えております。実施の内容のところを書いておりますけれども、ある一定の期間ごとに一貫したテーマの中で横浜の情報を編集するような形の中で、仮囲いを用いた雑誌を展開するようなイメージを持っておりますけれども、そういった取り組みをしたいと思っております。

コンテンツは地域の情報を足で稼いできまして、あるいは地域の皆様方と連携して、それを情報収集したいと思っております。それ以外にも、一部雑誌でいうところの協賛みたいな形の中で一緒に地域情報を発信する、あるいはその回のテーマの主になるようなパートナーを見つけてきまして、その寄与にもご協力いただきたいことが一つ。それから、新しい駅ビルの状況・情報が2020年度までに高まっていくたびにそういった情報を提供していきたいと思っております。

期間につきましては、2015年10月から2020年の3月まで、工事期間中の中で3カ月あるいは4カ月ごとに内容を変更しながら掲出していきたいと思っております。こちらは、仮囲いでございますので、工事の状況によって一部、形状等は変わりますので期間が確定的なものではございませんけれども、ある一定の収入を求めて、仮囲いの部分で情報を発信していきたいということでございます。位置図のところをごらんいただきますと、赤線で囲った部分が、仮囲いが出てくる想定する範囲でございます。実際には70メートル程度です。その部分で高さ3メートルの中で何らかの情報を発信していきたいと思っております。

既にアイデアレベルでは議論しておりますので、その辺をご紹介させていただきます。これは、仮囲いの面はちょうど実態の状況が、これは今3段ぶち抜きになっております。全部を使うと、このような形の中で、歩いてみると雑誌をめくっていくような形の中で情報を提供できないかと思っております。

これは、例えばですけれども、横浜のおいしい朝食みたいなテーマの中で横浜あるいは関内ですとか、横浜エリア周辺の中で評判のところを特集として押さえて、それをご紹介していくと。それで、ここへ訪れた人たちが「ああ、こういうところがあるのね」というところで、いろいろなところを歩いていただいたり、あるいはこういった編集を毎回楽しみにしていただけたりするといいなというようなことにチャレンジしていきたいと思っております。

そのほかにも横浜にはいろいろなイベントがございますし、あるいはスポーツ関係としても横浜ベイスターズやサッカーチームですとか、いろいろなものがございます。実際の取り組み自体はこれからですけれども、横浜にある固有の情報量というものを我々なりに集めて、それを仮囲いを使って発信していきたいと。あるいは、横浜周辺エリアとの関係性というのは、2020年以降、我々がこの地で運営をさせていただけますので、この取り組みを通じていろいろなパイプをつくりながら、2020年度以降の運営でも協力関係を築いていきたいというところもございます。

これはちょっと仮囲いの実際のイメージで、こういった形の張りつけ方をしますよというところのイメージでございます。

今回の活用の取り組みでございますが、この取り組みにつきましては横浜市様のいろいろなご助言等を加味しましてつくっております。まず我々のほうで横浜市にゆかりのあるデザイン会社さんと契約をしまして、そういった情報を集めるということ。あるいは仮囲いの全面をそういう意味ではプロデュースしてもらい、ディレクションしてもらいというところが取り組みの柱でございます。一方で、その内容が地域貢献に資するか、あるいは横浜の情報発信に足り得るかというところは審査・助言する部分で横浜市様のほうからこれから推薦いただきます3名以上の委員を迎え入れることによって確認していただくと。あるいはその情報は横浜市様のほうにご報告するという中で今回の取り組みができないかと考えております。

J R東日本においては今回初めてのチャレンジでございますし、4年半の中でいろいろな意見あるいは状況等が生まれてくると思っておりますけれども、まずは走らせていただきまして、横浜市様を通じて、あるいはこの場を通じて適切な形の中で、場合によっては形を変えるかもしれませんが、展開していきたいと考えております。説明は以上になります。

(菊竹会長)

ありがとうございます。通常ですと仮囲いの壁面の30%の面積までしか屋外広告物は掲出できないのですが、今回のケースは、地域に貢献する「横浜の、横浜による、横浜のためのメディア」ということで、全面的な広告を掲出できないかという案件でございます。委員の皆様からご質問・ご意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(山崎委員)

済みません、伺っていいですか。

(菊竹会長)

お願いいたします。

(山崎委員)

これは、横浜の例えばこのようなところが横浜にあるのだよというような、きれいな景色や何かを紹介するのと、それから先ほどちらっとおっしゃった、このようなお店があるのだよというような商業的なものが混在するということでしょうか。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

テーマによってちょっと違うと思いますが、横浜周辺にはすぐれた景観もございますので、もし例えば景観みたいなものをテーマに据えたら、その場所・場所をご紹介するというような形になります。そして、正式にどうなるかというところは、これから選びます先生方とご相談して、例えばもし朝食のテーマでいこうかとなったときには、横浜エリアの中で評判のお店をピックアップしまして、それをご紹介するというところです。それと、本当の部分での具体的な取り組みやテーマ設定の部分での展開はこれからでございますけれども、イメージとするとそういう形の中でイメージでしています。場合によっては複合みたいな形もあるかもしれません。

一つ違うのは、通常は例えばJ R東日本でコンコースの広告展開は我々が提供したいもの、あるいはクライアントがついたものを提供していくわけですが、今回主眼で置いているのは、周辺の方々がどういう情報を望んでいるかというところの視点で編集し、それをアウトプットしていきたいというところが、そういう意味では取り組みとしては大きく違います。

(菊竹会長)

ありがとうございます。

(岩村副会長)

よろしいですか。

(菊竹会長)

では、岩村副会長お願いいたします。

(岩村副会長)

まず仮囲いがこれほど美しい国は日本くらいなのです。海外に行くと仮囲いは汚らしくて、こういうものになかなか使えない場合が多いのですが、それを何らかの方法で4年間なり何なりと存在するとすれば、それを利用するというは大いに賛成です。問題は、それが固定化されたものが、今回4カ月ごとくらいに変わるといことですよ。その場合にコンテンツをどのように変えていくのかというような話は、例えば横浜のあそこ場所は私もよく使いますが、本当に人が見る場所なのかどうかということ。それと、あそこを歩いている人たちの目的は何なのかということ。それから、人が待ち合わせる場所であれば当然そういうことが考えられると思いますが、あそこは多分、人が移動するところだと思います。

そうしたときに、あそこに載せるコンテンツとして何がふさわしいのかというのは、よほど注意しないと、要するに非常に字が多いものをあそこに掲出したとしても、ほとんどだれも読まないということにもなり得ると思います。では絵だけかという話になるわけですが、例えば四季折々という話があるかもしれませんが、時間軸でそれをどう考えるかという話。それから、例えばこれは絵として固定しないで映像を何か映写したらどうかという話だって、大変かもしれないけれども、ないわけではないですよ。そういういろいろなコンテンツの考え方がある中で最良のものを選んでいけばいいと思います。

ただ問題は、広告物となったときに、例えばこのお店がおいしいですよという話が4カ月なり何なりそこにずっと掲出されるということはどうなのだろうか、個人的には思います。ですから、横浜らしさ、横浜のかなりこういうビジュアルのことを一生懸命考えている都市として、どういうものがふさわしいのかということをごひ考えていただきたいと思います。なかなかこれは難しいと思います。私は、元来あそこの横浜駅自体が相当ひどい状況が続いてきているので、あれをどうにかしてほしいなということをかねてから思っていました。特に西口と東口は随分距離がありますよね。

これは工事する際に地下はどうなるのですか。やはり工事されるわけですか。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

そうです。今回、相鉄ジョイナス様のほうと地下で接続するような形になります。

(岩村副会長)

そうすると、工事期間中、地下はどうなるのですか。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

「どうなる」というのは？ 当然、閉鎖することはないので、ご利用していただいて。

(岩村副会長)

地下にも例えばこういう仮囲いはできるのですか。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

地下の工事がありますので、その工事期間中は仮囲いが一部できる場所はあります。

(岩村副会長)

ありますよね。そちらは何もされないという予定ですか。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

この取り組みの範囲では考えておりませんが、何らかの取り組みはしようと。そういう意味では、工事としての取り組みはしようと思っています。

(岩村副会長)

人数からいうと多分、地上よりも地下のほうが圧倒的に多いですよ。その辺はこれからいろいろと議論されることだと思います。すごくよさそうな話だけど、逆に何を掲出するかというのは非常に難しいということも個人的な印象としてはあります。では、どうぞ。

(菊竹会長)

ありがとうございました。

(松野委員)

岩村さんと全く同じです。この写真で見ると、このスペースに掲出した場合どれだけの人が興味を持って見るか。この一番大きな写真1枚で、あと文字は、ほんの2～3行くらいではない限り読まないです。問題は、この4年間にこの塀をつくるコンテンツのすり合わせと段階的展示戦略を綿密にやってほしいです。これは予算もそうですけど、コンテンツの集団のだれがディレクションするか。これによ

って大きく変わってしまいます。横浜をどのように見ている、どういう包丁さばきができて、さじかげんができる人がいるかどうかということ。それと、こちらの組織体がそれにちゃんと連動出来るかどうか。その辺を綿密にやってほしいです。

あとは、企画書を読んでいたのですが、情報発信ということで取り上げられているけど、そんなに肩の力を入れないでほしいです。ただ普通の景色の一部ということでまず考えてもらったほうがいいと思います。例えばよくやるのが初めて物語みたいなことをテーマにして、何かごちゃごちゃつくり上げるのですが「また、あれか！」と思われて結局それは失敗するのです。だから、そのあたりを、いかにおしゃれで、粋に、横浜の人にわかっていますよという段階の上で、テーマを遊べるくらい楽しんでもらえるモノで勝負して欲しい。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

貴重なご意見ありがとうございます。我々のほうもやはり流動との話の中で、どういう情報発信をすればいいかということは、文字のサイズ一つ含めて非常にポイントだと思っています。ただ、一つご紹介したいのは、通常、仮囲いは工事の部隊が担当するのです。つまり、そういう意味では工事の延長上でやっているのですが、我々は工事の部隊ではなくて商品企画の部隊です。だからJR東日本があの地において商品企画のチームをプロデュースしようというのは、工事とは全然違うものをつくり出すということです。

非常に長い期間の中で初めての取り組みでございますので、回を追うごとに多分いろいろな部分での反省点が出てくると思いますし、あるいは編集の内容などが出てくると思います。その辺を生かしながら、先生方や横浜市長、この委員会の皆様のいろいろなご助言等をいただきながら、2020年には「あの仮囲いがなくなっちゃうのか、さみしいな」と言ってもらえるようなものがぜひできればいいかなと。初めのころは正直トライ・アンド・エラーがやはりあると思いますので、もしお気づきの点がありましたら、「おい、あれじゃ小さ過ぎるじゃないか」とか「あの編集ないよな」というご忌憚のない意見をちょうだいしたいと思います。とりあえず工事期間中の非常に閉塞感のある状況ではございますが、その状況で、地域の人たちに喜んでいただける情報発信をJR東日本としてもぜひしていきたいところをご理解いただきたいと思います。

(菊竹会長)

ありがとうございます。

では、私からビジュアルコミュニケーションの専門的立場として一つお願いしたいことがあります。広告とともに、工事中は特に、迷うことなく目的の場所に人を誘導するための案内・誘導サインが大変重要です。本来は広告のビジュアルとは全く違う形で掲出すべきではないだろうかと思います。駅周辺が工事用のフェンスで覆われているだけで、人は混乱致しますから、案内・誘導サインが分かりやすく設置されますようご配慮頂きたくお願い致します。

ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

(山中委員)

一点、これから検討されると思いますが、すばらしい広告というか、こういうものができる、やはりそれを見てそちらに注意がいくというところもあるのかなと思います。やはり工事中で狭くなっていたり、下の路面もよくなかったり、いろいろなことがあるかと思うので、そこは歩行者の安全、特に角の部分でいいますと、向こう側が見えなくてぶつかってしまうとかも想定されるので、その辺はそういう安全面ということからもご検討していただきたいと思います。

(菊竹会長)

ほかにかがでございましょうか。

(岩村副会長)

これは夜間はどうするのですか。照明をつけるのですか。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

もちろん必要な照明はつけます。安全上、必要なものは当然削ったりはしませんので。

(菊竹会長)

どうぞ、大川委員。

(大川委員)

いたずらなどはどうですか。どういう対策をとっておりますか。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

いたずらというのは落書きでしょうか。

(大川委員)

落書き、いたずらです。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

通常の工事期間中はガードマンや交通誘導員がつかますので、その中での注視という部分です。本当の深夜帯は落書きをしていただかないような、すてきなものをつくるしかないかなと思います。具体的な対策は、ちょっと深夜帯はまだこれからです。

(大川委員)

それから、例えばきれいなこのサインがついたとしても、GLから600ぐらいまでは非常に汚れるわけです。人が寄りかかる、靴でける、泥がはね返る、雨がはねる。したがって、このサインがこれを見ると全面サインになっていますけど、それはいずれ変わるのでしょけれど、せめて下から600とか500をそういうものに耐えられるものにして統一しておく。そうでなかったら掃除をやすくしておく、そこから上をサインにすると。そういう意味で、そのくらいの配慮があると、きれいになるかなと思います。

それから、こうやって少し美的空間といいますけど、少し間をあける。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

白い面を残すということですね。

(大川委員)

こうやってAサイン・Bサインがびちっとういうふうにつくということではなくて、少しあける。それには、このパネルが横浜らしい色に統一して区別して塗られている、20メートル間隔で色を変えて塗ってあるとかね。それともう一つは「ぜひうちはここを2年借りたい」。今4カ月とおっしゃっていましたが、「どうしてもうちはここを1年貸していただけませんか」と。この70メートルある中で必ずサインに適しているところと適していないところが出てきます。それは皆さん、まちの人たちのほうがよくわかっています。「ぜひこのルミネの真ん前がいい」「いえいえ、そうじゃなくて、こっちの横浜シヤルのほうがいい」という提案が出たときにどうされますか。何が何でも4カ月で変えますか。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

基本的には、まずはこの面は先ほど先生からご指摘いただいたサインの案内計画がまず大前提でございます。あるいは、ご指摘いただいたとおり工事上の安全に阻害しないということが大前提です。その中で仮囲いのある種トータルでコーディネートして、それはデザイン的なもの、あるいは質的なものを担保するのです。やはりいい場所なので、いろいろな方々が個別にここを展開したいみたいな話がありますが、ともすると、それではばらばらになってしまうので、ある一定の情報を制御しながら編集していくということをぜひやっていきたいと思います。今のところは、ある一定の制約で編集するという話の中で、あるいはその変化を持たせるために3カ月～4カ月と置いておりますので、今のところは余り例外的なクライアントの要望を受けて、「じゃあ、これはあなた方、2年とか3年とかにします」ということではなくて、ある一定の期間の中でそういうような取り組みで2020年を迎えますので、やってまいりますというところでご説明してご理解いただくつもりではいます。

(大川委員)

わかりました。

(松野委員)

結局それは一貫性を持たせたテーマ設定だと思います。それは4年間分つくってしまうべきだと思います。例えば2年目に「ここをぜひ、うちが借りて宣伝したい」と有力企業が来たときに、「実は2年目は」とか「ことしの何カ月間はこういうテーマなんです。これに合いますか」と。そのとき例えば横浜の猫とかにしたとします。いろいろな猫が出てくるのだろうけど、そういうところで果たしてそれが猫を通して広告が埋められる相手なのかどうか。要するに今出た話は、何でもかんでもそのスペースをよこせと来たらどうするのかという話です。でも、そうではなくて、もうこちらサイドで、今年はこのテーマで、それで積み重ねて4年やるのだという大きなゴール・コンセプトをまず持ってほしいです。そこからいろいろな問題が投げかけられてくると思いますが、それに対していろいろ応えていけるような任務を実行出来るグループをしっかりと編成して欲しいです。

(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社

一応テーマ自体は、最大2020年の3月いっぱいまでで18回できます。社内レベルの中では18のテーマは既につくっております。ただ、これは社内の中での話でございます。今後、先生方あるいは実際に情報提供していただく方との話し合いの中でも決まってくる。また、我々がやりたいと思っているのは、ここに地域のにぎわいの場をつくりたい、あるいは利用者の視点の中で求められる情報をつくりたいということなので、要は私たちがつくったテーマを主張したいわけではありません。ただ、状況に

	<p>応じては当然変えていこうと思います。全然望まれないものを固執してずっとやっていくつもりはありません。</p> <p>ただ、その上でまず10月あるいは1月とか、ことし2回やりたいなと思っているのですが、その状況をご報告し、いろいろなアドバイスをいただきながら、どういう形にするのがいいのかというところをぜひ意見交換をしたいと思います。私たちが初めての取り組みなので、本当にどういう形であればいいかというのは確認たる意見がありません。ただ、横浜でやった事例というのは、JR東日本はいろいろなところに展開できます。まずこれを初めの取り組みとして、どういう形で仮囲いを使うことが工事期間中の長い期間の中で、地元の方々に喜んでいただけるのかというところは、言葉は悪いのですが、ぜひ実験してみたいのです。今そういうような気構えでいます。</p> <p>(菊竹会長) ありがとうございます。ほかに何かありますでしょうか。</p> <p>(大川委員) もう一つだけいいですか。現実的にこれは物を何か張りますか。</p> <p>(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社 そうです。今のところ、仮囲いがスチール系のパネルでございますので、シートを張ってやっていきたいと思っています。</p> <p>(大川委員) 塩ビシートを張っていききたいと。</p> <p>(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社 そうです。</p> <p>(大川委員) そういうメディアを張りたいということですね。</p> <p>(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社 そうです。</p> <p>(大川委員) 中にはまた、ちょっと凝ったものでやりたいという人たちも出てくるのかなと思うけど、そこは一貫して、要は突起物のないようにしないと何が起るかわかりませんのでね。</p> <p>(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社 はい、そうですね。</p> <p>(大川委員) わかりました。</p> <p>(菊竹会長) ありがとうございます。いろいろ貴重なご意見が出たと思います。コンテンツ、管理運営、それから駅の案内・誘導サインなどにご留意いただきまして、ご検討いただきたいと思いますが、これでご了承いただいたということにさせていただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。</p> <p>(了承)</p> <p>(菊竹会長) ありがとうございます。</p> <p>(説明者) 東日本旅客鉄道株式会社 ありがとうございます。</p>
資料	・第55回横浜市屋外広告物審議会資料
特記事項	・本日の議事録については、各委員で確認した後、会長が最終確認する。